

## 内容評価細目の第三者評価結果 【保育所版】

### A-1 保育内容

			第三者評価結果
A-1-1 保育課程の編成			
1	A-1-1-(1)-①	保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a
<コメント> 園の運営方針・教育・保育方針が明文化され、家庭環境や地域の特性に配慮して保育課程が編成されている。さらに年間活動テーマを決めて園行事や地域との交流に繋がる取組みを実施し、子どもたちの養護・教育に向けた役割を果たしている。			
A-1-2 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開			
2	A-1-2-(1)-①	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a
<コメント> 開園2年目で新しく木の香りがし、どの角度からも園内が見渡せる造りとなっており、設備面も配慮されている。また自然環境にも恵まれ、一人ひとりの発達段階に応じた遊びや異年齢児同士でのびのびと遊べる環境となっている。各保育室に加湿器を設置して温湿度管理がされており冬はペレットストーブの暖かさに包まれている。			
3	A-1-2-(2)-②	一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a
<コメント> 教育・保育方針である園児一人ひとりが安定した情緒の中で、自己を十分発揮できるように職員は家庭との連絡を密にし、他と比較したりせず温かな目で見守り、保育目標の達成に繋いでいる。			
4	A-1-2-(2)-③	子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。	a
<コメント> 子どもたちの基本的な生活習慣は何より保護者等との連携が大事として、園で使用するものについての協力を得ている。箸の持ち方や歯磨き等についてパンフレットを配布し保護者等と情報交換を行い習慣づくよう取り組んでいる。また睡眠時間などは家庭環境の違いに配慮しながら理解を得られる努力をしている。			
5	A-1-2-(2)-④	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a
<コメント> 自然豊かな場所に立地しており、近くの山や野原への散策、地域めぐり、広い園庭での戸外遊びがいっぱいできる環境になっている。子どもたちは自然からの恵みを楽しみ、枝や葉っぱで工夫した作品づくり、また図鑑で調べたり、地域の高齢者から話を聞くなど知識と知恵を育てている。季節ごとに変化するまわりの景色の中で、遊びの工夫がたくさんみられ成長に繋がっている。			
6	A-1-2-(2)-⑤	乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<コメント> 未満児、特に0歳児は月例によって成長の差が大きいため、同じ保育士が関わるようにしてスキンシップをとり安心して過ごせるよう配慮している。授乳・沐浴・離乳食・睡眠などリズムを大切にきめ細やかな対応で、保護者とは連絡帳で家庭での様子や夜間時に問題がなかったかなど情報を共有しながら援助している。			
7	A-1-2-(2)-⑥	3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<コメント> 1・2歳児は特に言葉の覚えや吸収力など成長が早く見られ、職員に話しかけてくる時期でもあり一人ひとりの思いを大切にしている。職員は子どもの遊びの中でのトラブルが起きた場合、周囲の状況が判断できるように柔軟な関わりを持ち、気持ちを理解し次の保育に繋げている。			
8	A-1-2-(2)-⑦	3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<コメント> 3歳児は友達同士で協力できるようになり集団での遊びが多くなっている。4歳児は個性が強く自己主張が多くなるので子ども同士の関わりがうまく行かない時は解決に向けた手助けをしている。5歳児は姉妹園と共同での交流や体験を多く取り入れ安心して就学に繋がるように援助している。			
9	A-1-2-(2)-⑧	障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<コメント> 障がいのある子どもについては、市の家庭相談員・保健師・山形県療育センター等とも相談を行い、保護者等と連携した保育計画で対応をしている。また障がい児保育についても研修を行い、内容や方法についても職員の共有を図っている。			
10	A-1-2-(2)-⑨	長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<コメント> 遊戯室・多目的ホールの両側に保育室が配置されており、どこからでも見えるような環境づくりとなっている。常に異年齢児との交流ができ、また延長保育においても一緒に遊ぶことができるようしており、職員配置や引継も適切に行われている。			

## 内容評価細目の第三者評価結果 【保育所版】

11	A-1-(2)-⑩	小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a
<コメント> 市主催の保育所・小中学校の会議を年数回行っている。小学校とは意見交換や連携を図り、就学半年前から生活習慣の見直しを行い、3月からは昼寝をしないなどに取組み、保護者等と協力のもとに生活習慣のカードで把握し当番活動しながら小学校生活にスムーズに移行できるよう教育・保育をしている。			
A-1-(3) 健康管理			
12	A-1-(3)-①	子どもの健康管理を適切に行っている。	a
<コメント> 健康管理は、入園時に発育歴・既往歴・予防接種・アレルギー反応・アトピー性肌などを記入した児童票を提出してもらい、保育課程の中で職員が共有しながら注意を払い保育にあたっている。乳幼児突然死症候群に関しては、マニュアルに沿って分単位で確認を行っており緊急の場合の対応ができるようにしている。			
13	A-1-(3)-②	健康診断・歯科検診の結果を保育に反映している。	a
<コメント> 健康診断や歯科健診は定期的に行っており、急病などの場合には園医にかかるようにし、結果を保護者等に知らせている。園児は歯科医師から歯の大切さを学び、また正しい歯磨きの方法も教えてもらい、調理師からの声かけで肥満度チェックを行い健康管理に取り組んでいる。			
14	A-1-(3)-③	アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a
<コメント> アレルギー対応マニュアルを作成し保護者等と連絡を密に取り情報提供を受け適切に対応している。食物アレルギーに関しては調理師と連携しチェック表を用いてトレイやテーブルにも表示して、保育士が付き添って一緒に食事をするなど誤食にも注意をしている。外部のアレルギー研修に参加し、全職員に園内研修を行い理解を図っている。			
A-1-(4) 食事			
15	A-1-(4)-①	食事を楽しむことができるよう工夫している。	a
<コメント> 食育目標を設定し、季節食・行事食・郷土食を考慮して主任調理師・職員と一緒に献立を作成し、保護者等にはサンプルを展示、レシピを提供しており料理の献立に役立つと保護者等から好評を得ている。子どもたちは調理の様子が窓越しに見えて楽しみにしており、オープンスペースで一緒に食事を摂ることにより会話も弾み食欲も増している。			
16	A-1-(4)-②	子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a
<コメント> 年長児からのリクエストメニューや、毎日の食事の際に子どもたちから話を聞いて参考にし献立作成の工夫をしている。おやつ作りや祖父母交流行事の際、郷土食(笹巻き・よもぎまんじゅう・いもようかん等)を作り伝統を学んでいる。離乳食は家庭と連携して、調理師が作成し提供している。保健衛生マニュアルも作成済みで保育園内の衛生管理には積極的に取り組んでいる。			

### A-2 子育て支援

			第三者評価結果
A-2-(1) 家庭との緊密な連携			
17	A-2-(1)-①	子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a
<コメント> 保護者等とは送迎時や連絡帳で一日の様子を知らせ、子どもの情報・意見交換を行っている。また園だより・クラスだより・給食だより・ほけんだより・図書だよりのそれぞれ担当を決めて発行し、園の情報を提供している。保護者等からの意見や要望の記録をとり対応し、職員会議等で共有を図っている。			
A-2-(2) 保護者等の支援			
18	A-2-(2)-①	保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a
<コメント> 保護者等からの子育ての相談や個別面談には、クラス担任や園長を通して、保護者等の時間に合わせていつでも相談できる体制で、育児相談カードに記録し内容によっては職員間でも共有ができています。			
19	A-2-(2)-②	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b
<コメント> 子どもの変化に気を配りおむつ交換等の際などは細心の注意を払い、身体を確認するなどして早期発見・早期対応に心がけている。虐待等のマニュアルは現在作成されていないが、保健所等での研修にも参加し、資料に基づきチェックを行っている。今後マニュアルの整備に向け検討している。			

## 内容評価細目の第三者評価結果 【保育所版】

### A-3 保育の質の向上

		第三者評価結果
A-3-(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)		
20	A-3-(1)-①	保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。
		<b>b</b>
<p>&lt;コメント&gt;                      保育に関する疑問が出たときは話し合いを多く重ね、振り返りながら職員間で評価し保育の実践に活かしている。職員会議や園内研修時などで相互に意識改革に努め質の向上を図っている。</p>		